



主任コラム6月号



主任 澤井 良子

4月末に、県保育士協会の研修に参加してきました。NHK のすすすく子育てにも出演されている井桁容子先生の講演でした。「子どもへのまなざし」というタイトルの中で、【まなざし】とは単なる情報だけでなく、その視線の背景にある感情や意図・心の状態を反映したものと言われました。何かあった時に、子どもの姿を見て大人の経験で想像し決めつけてしまいがちですが、実際には子ども自身に聞かないと分からないことはたくさんあり、子どもの気持ちを理解してあげられないまま終わってしまっていることもあるかもしれない…と講演を聞く中で、自分自身の子どもへの関わりを見つめ直すきっかけとなりました。今月は、保育の中であったエピソードをお伝えしたいと思います。

他の年齢がお昼寝をしている時間に、年長児は読み聞かせをしています。保育士が絵を見せずに読むお話を想像しながら聞くのですが、ある日、ありとギリギリス話を聞いた後に『ギリギリスは、働かなかったからかわいそうだと思わない』という意見が多い中、ある女の子が手を挙げ「私は、それでもかわいそうだからギリギリスを助けてあげたい」と涙ぐみながら答えてくれたということを、担任の保育士から聞きました。この時間は、物語の中の登場人物の気持ちになり想像する…ということや、人の考えを聞くということ、そして人と違ったことを感じて自分の意見を伝えるということが大切になっています。この女の子が勇気をもって伝えられたことはすごいなと感じた瞬間でした。

また、ある日の選択活動では、畑の草抜きと園庭遊びがあったのですが、AちゃんとB君は畑を選び、E君は園庭を選んでいたので、君は畑に行きたくなり行くとAちゃんに『いっぱいいるからE君は来なくていい』と言われ泣きだしてしまいました。それを見ていたC君がE君の気持ちを知り、一緒に畑のAちゃんのところへ連れて行ってくれました。Aちゃんはなんだか居づらそうな表情を浮かべながらも、気持ちの整理をしているのか「後でEくんとは話す」と言い、E君は気持ちを言えないまま園庭へ戻っていきました。私たち保育士は気持ちを諭すことはせずにEくんや、Aちゃんの思いを聞きながら2人がどうするのかを情報共有しながら見守っていました。すると、Aちゃんから「先生、Eくんと仲直りしたよ」と言いに来てくれました。Aちゃんは、E君だけを入れたくなかった訳ではなく、いっぱい人が畑にいるから大丈夫だよ！と言いたかったこと、自分が反対の立場だったら…ということに気づいたとき、初めてEくんと話ができる気持ちになったようです。

お手伝い保育の場面では、階段から下りる1歳児（りす組）のお手伝いをしていて、年長児が自分のペースで下りてしまい、手をつないでいた1歳児がそのペースについていけなかったということがありました。午後からの自己評価チェック表でその話がでた時に、G君は「小さい子の思いに気づけた」と評価していましたが、心の中では気になっていたようで、次の日のお手伝い保育は「行かない」と伝えに来ました。担任はG君の思いを尊重し「行く！」と言い出してきてくれるまで見守ることにしました。すると次の日にG君は「りす組に行く」と言い、階段を下りる場面では小さい子のペースに合わせて下りる姿がありました。りす組の保育士から担任は様子を聞き『G君、小さい子のことを考えてお手伝いしてくれたんだね』と保育士に褒められて嬉しそうでした。

見守る保育第3条にもあります【**子どもが何を考えているかを、いつも先回りして考えるのではなく、子どもの考えを聞いてあげます**】日々の保育の中では沢山このようなことがあります。職員同士・またクラスのチームで子どもの考えを待ちながら、情報共有していきたいと思います。